

# 令和5 (2023) 年度 北海道植物学会講演会及び総会

日時 12月19日(火) 会場 北大理学部 5-203大講堂/2Fロビー

13:30-14:50 < 講演会1 > (北大理学部5-203 大講堂)

13:30-13:35 はじめに

13:35-14:05 雑草の都市進化と生物間相互作用: 虫の目で植物を見て、植物の目で虫を見る  
(内海俊介)

14:05-14:30 細胞外の低分子化合物による植物のシグナル伝達への影響 (蔭西 知子)

14:30-14:55 麻酔薬剤が植物根の環境応答に与える影響 (陽川憲)

15:00-16:25 < ポスターセッション > (北大理学部5号館2階ロビー)

コケ植物を利用した土壌形成技術の開発 (河原快明)

上流ORFによる翻訳制御を介した植物のマグネシウム恒常性維持機構 (海藤篤)

Understanding the association between HSFA2 and ONSEN expression (Zhiyu Ge)

植物の重力屈性について、その応答経路の進化を探る (若山健太郎)

DNA methylation mediates transcriptional regulation of heat-active retrotransposons by HDAC (Xin Sun)

歌才湿原におけるハイヌツゲの分布 (熊倉 彩花)

宇宙開発を見据えたヒメツリガネゴケの環境ストレス耐性に関する研究 (井上敦子)

シロイヌナズナの維管束形成を司るLONESOME HIGHWAYの上流ORFによる翻訳制御の生理学的役割 (狩野泰平)

植物のC/N栄養ストレス応答に関与する膜交通制御因子MIN7/BEN1/BIG5の機能解析 (遠藤海斗)

ササ当年葉の越冬における光防御と光阻害 (島田康平)

StayGreenクロロフィルMg脱金属酵素の新しい機能: さまざまな金属を取り込んだクロロフィル誘導体の形成 (佐藤颯真)

プラシノ藻 *Nephroselmis* の淡水適応に伴う光化学系の分子進化 (高村 有咲)

Revisiting the early light-induced protein hypothesis in the sustained thermal dissipation mechanism in overwintering yew leaves (Zihao Ye)

神経伝達物質アセチルコリンによるシロイヌナズナ根接触応答の抑制 (野口紅羽)

脂肪酸の不飽和度によって異なるシロイヌナズナ根の伸長と側根形成への影響 (小野萌花)

From green algae to land plants: the photosynthetic apparatus of the green alga *Mesostigma viride* exhibits intermediate traits (亀尾辰砂)

The evolution of membrane trafficking system to establish polar auxin transport (末満寛太)

シダ植物 リチャードミズワラビの発生・成長における植物ホルモンの作用機序解析に向けて (瓦吹英毅)

16:30-17:30 < 講演会2 > (北大理学部5-203 大講堂)

16:30-17:00 Root microbiota interfering with host root growth-defense coordination (中野亮平)

17:00-17:30 紅葉は樹冠内部の葉を守り、樹冠全体での窒素回収に貢献する (北尾光俊)

17:40-18:00 総会 (北大理学部5-203 大講堂)

18:30-\_\_\_\_\_ 懇親会 (北大理学部5-301)

(背景: 石川淳子)

総会・講演会・懇親会を上記会場で開催します  
(事前登録不要)。北海道植物学会会員の皆様は総会にご参加ください。

講演会は北海道植物学会会員でなくともご自由にご参加頂けます。

懇親会は当日も受付ます(会費1,000円)。



北海道植物学会ホームページ  
問い合わせ先(事務局)  
藤田 知道  
TEL: 011-706-2740  
E-mail: tfujita@sci.hokudai.ac.jp